


『雨上がりの休日』 寸評

- ・ 晴れ間をのぞむきもち、ひしひしと感じとれます
- ・ ピアノらしさが両手どちらも追求されています
- ・ m.1-5メロディとベースの関係がよくとらえられている
- ・ m.11-13ドラマづくりが旋律線と和声進行のどちらも良好
- ・ ↑左手の強拍上の音域をそれまでと変えたのも効果がよい

完成度をさらに上げるために

- ・ メロディがミとファをいったりきたり
←m.3-4とm.7-8動機操作を意識しすぎてませんか？
- ・ m.6左手この表記のほうが $\frac{3}{8}$ らしい → 
- ・ m.7b.2左手は低すぎてソとシの長三度がにごってきこえるので
(←ロー・インターバル・リミット) 構成音を変更
- ・ ロー・インターバル・リミット → 低音域における2音間の使用限界
和声の機能を不明りょうにしてしまう
- ・ メロディなるたけ調の主音で終わってほしい
- ・ m.9の左手のリズム型もm.10に準じたほうが弾きやすい
- ・ m.10ベースが第3音のときは上声部に第3音を含ませないほうがよい
←特に長三和音
- ・ m.14-16すこし尻すぼみにきこえる
- ・ 曲のしまいかたは記憶にのこるので工夫してみよう
- ・ 求める演奏イメージは発想記号に託します

m.=measure 小節番号のことです。

b.=beat 拍のことです。

がんばりましたね。

持麿 勉